

中國出土資料學會
平成29年度第1回大会

日 時：平成29年7月15日（土）
平成29年度第1回大会
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00

場 所： 成城大学 7号館3階 731教室 （東京都世田谷区成城6-1-20）
キャンパスマップ：<http://www.seijo.ac.jp/access/campusmap.html>
会場へのアクセス： 小田急線成城学園前駅北口より徒歩3分

報告Ⅰ 新津健一郎

（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員DC）

発表題目：新史料からみる三国南朝時代の交州地域社会

—ベトナム・バクニン省陶列侯碑の分析—

発表概要：本報告は、近年ベトナム・バクニン省で確認された4世紀の石碑・陶列侯碑を取り上げる。本碑については、すでに碑主の経歴や追刻（5世紀）の書式に関する議論があるが、碑の背景となる社会の実態に踏み込んだ分析は未着手である。そこで、相互に関連する次の二つの問題につき検討を行う。第一に、歴史地理の問題である。本碑は、4世紀を利用期間に含む城郭遺跡の近傍に所在するが、この一帯に関する『水経注』等の記事にはやや混乱がある。そこで、刻文を踏まえて交州諸県の比定を再検討する。第二に、地域社会をめぐる問題である。4世紀には、交州を「支配」する王朝が混乱を呈し、他方、南では林邑が勢力を強めた。このとき、交州の地域社会はいかに反応し、それは立碑とどう関わったのか。顕彰者の政治的立場を分析することによって、この問題を解明する。以上の検討から、三国南朝時代の境界地帯における地域社会のすがたを探る。

報告Ⅱ 雷 欣翰

（東京大学東洋文化研究所訪問研究員）

発表題目：鶡冠子與出土簡帛中的宇宙創生論

発表概要：對宇宙創生過程的論述是道家文獻的一大特色。《鶡冠子》具有鮮明的黃老道家色彩，其中的《環流》《度萬》兩篇，記載了兩種比較完整的宇宙創生理論。《環流》中的“氣”概念與上博簡《凡物流形》關係密切，其所涉及的“環流”“復周”理念則可與馬王堆出土《老子》乙本前古佚書相互印證。《度萬》所載的創生論相對簡單，但不僅可與郭店楚簡《太一生水》直接對照，還涉及“陰陽”與“氣”、“五勝”與“勢”等諸多問題。此外，在戰國思想中佔據重要地位的“形名”，也應是《鶡冠子》與出土簡帛比較研究的一個要點。

報告Ⅲ 谷中 信一

(日本女子大学名誉教授)

発表題目：清華簡からみた『逸周書』の文獻價值

発表概要：清華簡は非發掘簡であるとは言え、辨偽作業を通してその先秦思想史研究における資料價值をほぼ確立し得たと言ってよいであろう。そこで、次に求められるのはそうした新出土資料を用いて傳世文獻によって構築されてきた學説を再検討することである。しかしそれは先人たちがこれまで傳世文獻を用いて蓄積してきた研究成果を覆すことが目的ではないし、またそれが可能とも思われない。新資料を用いて傳世文獻の資料價值が見直されることもあったのである。

本報告では、清華簡に現行『逸周書』と同一内容の文獻が複数確認されたのを機に、『逸周書』が持つ先秦思想史研究の資料價值を検討することにしたい。ところでこの『逸周書』はとても扱いにくい資料として従来敬遠されてきたのであるが、1980年代からしばらくの間、集中的に研究してきた私にとって、この度の清華簡の登場はまことに僥倖とも言うべき出来事であった。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

連絡先 (大会委員長)

〒270-8555 千葉県松戸市新松戸3-2-1

流通経済大学法学部 富田 美智江

Tel : 0297-60-1930 (直通)

E-mail : tomita-michie@rku.ac.jp

成城学園前駅(北口)から学園正門まで徒歩3分

